

岩滑区、行政、NPOとの協働で

「防災から安住のまちづくり」

岩滑区が、公益財団法人日本生命財団から「防災から安住のまちづくり」として助成金をうけることになりました。今回の助成事業では、防災まちづくりで岩滑区がお願いした区民が、問題に取り組む体制をつくりまします。具体的には災害時要援護者とある程度重なる高齢単身世帯、夫婦のみ世帯、のように高齢者だけで暮らす人たちの安心できる暮らしの支援体制を確立します。また認知症の高齢者に対する、地域としての取り組みを考えまします。NPO法人りんりん、半田市社会福祉協議会、大学教授等の研究者との協働で、2年半の間実施します。

りんりんでは、要援護者と支援者の方の交流としてりんりん茶屋で食事をいっしょにしてもらい、普段どのように関わっていけるかを模索していきます。10月13日に助成金贈呈式がありました。当日は日本生命財団の藤原部長から、東日本大震災後「絆」の構築が重要というお話がありました。23年の漢字も「絆」の文字に決まりました。

りんりんでも今回の助成事業の中で、日々の見守りを行うにあたって、支援者の方が生活リズムの中で無理なくできるよう

な見守り、さりげなく配慮した「絆」の仕組みを作っていると考えています。

渡邊



榎原 杉子：作

平成24年(2012) 1月

NO. 50

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます
皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

榎原 照子 水野 陽子
(敬称略)

平成23年度賛助会員

小山 光子 佐藤千栄子 滝澤 高子
新美ふく江 新美 巴 (敬称略)

またひとつ
年を取ったか お正月
年始挨拶元気な声で
びんこう

りんりんのできごと

研修会

- 9月 介護事故予防・緊急時の対応・再発防止 ……36名
- 10月 『高齢社会の10年後はどうなっているのでしょうか』
講師 京都女子大学 山田健司先生 ……57名
- 11月 インフルエンザ予防接種・実技講習“移乗” ……44名

	9月	10月	11月
絵手紙	6名	6名	18名
さをり織り	32名	20名	18名
生き活きサロン	187名	187名	155名
小物づくり	15名	16名	8名

(延べ利用人数)



会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
109名	57名	53名	219名

(H23/12月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



『しあわせ…?』

新しい年の初めに、しあわせについて考えたいと思います。

幸福度1位の福井県について、雪深く自然の厳しいところでは、“何も起きなかったらありがたい”と思えることが、幸せ度1位の理由ではないかと考えた方がいらっしゃいました。

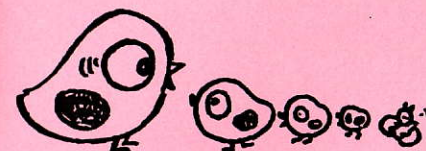
私が今読んでいる『大江戸リサイクル事情』の著者石川英輔氏は「ぜいたくをぜいたくとさえ感じなくなっている現代人にとっては真夏の暑い盛り冷房をきかせて、アイスクリームをなめながら、テレビで高校野球を見たぐらいでは、ぜいたくをしたうちには入らない」と書いています。

漫画家の前川つかさ氏は「僕にとっては、暇な時間が一番の宝物です。本を読んだり、洗濯物をたたんだり…。今、息子の高校のPTAをやっています。色々な人とのつながりができ、漫画家生活では得られない新鮮な体験です。“明るいピンボ生活”で頼りになるのは、やはり直接会って助け合えるご近所さんです」と語っています。

私の考えるしあわせが三人の言葉の中にキラめいて、心魅かれたのだと思います。しあわせはどこにあるのではなく、日常のくらしの中にひっそりと座っていて、その住人である自分が気づくかどうかなのでしょう。そのためには足下を照らす灯りとなる豊かな心を持ちたいと思います。

新しい年が、しあわせを静かな気持ちで感じとれる一年となりますように。

理事長 村上真喜子



りんりん茶屋

『生き活きサロン』 『おでかけサロン』



平成17年6月からりんりん茶屋で地域ふれあい事業の一環として、食を通して生きがい作り、仲間作りの場を提供する“生き活きサロン”“おでかけサロン”を開催しています。

“生き活きサロン”は毎月150名程の利用があり、一人暮らしの高齢者などがコーヒーやランチを楽しんだり、地域の女性たちが料理をいっしょに作るなどの交流の場となっています。

“おでかけサロン”は、半田市からの委託で開催されています。高齢者の閉じこもりや認知症予防などを目的とした地域での交流の場を提供しています。手作りの栄養満点なランチを楽しい会話と共にいただき、心身の活性化になっています。

12月の木曜日の“おでかけサロン”には、4人のお客様が来しました。男性1人と女性3人一緒にランチを食べ、食後は賑やかに話をされています。去年の7月と9月から来ている方々です。



皆さんのご感想です。

- ・今まではあまり人と話すこともなく、一日が過ぎていた、気も晴れなかった、ここへ来てなんでもない話ができる楽しい。喋るということとはとても大事なことです。
- ・一人暮らしなので家ではたいした物は作らないが、ここの料理はおいしいし、食材がたくさん使っているから、栄養面でもありがたい。
- ・知らないもの同志だから、気楽に話ができる。近所の人と話す時は、気を使わなければならないことも多いのでー
- ・ここでみなさんと一緒に食事をする食欲が出て、残さず食べられる。
- ・戦争の頃の話、政治の話、昔話など、どんなことも話題になる。戦争当時のこと、東南海地震のこと、経験しているからよく解る。
- ・“一緒に食事をしながら”というのがよけい親しみを増す。
- ・他の人に自分の知らなかったことや生活の工夫など教えてもらったりできるのも嬉しい。
- ・こんな場所にくる機会がある自分たちは幸せだ。
- ・昭和一桁に生まれた人は、兄弟が多かったことも共通点。それぞれ聞き上手、話し上手である。

みなさんどうぞ一度りんりん茶屋へいらして下さい。

『生き活きサロン』『おでかけサロン』

毎週月・木曜日12時～13時30分頃まで(前日までに要予約)

りんりん事務所 TEL(0569)21-3646

プチりんご

産後3ヶ月までの方、半田市内での援助のみ

1万円コース 1時間 × 7回

5千円コース 1時間 × 3回

※ご出産祝いなどプレゼントとしても使っていただけます。

りんりん事務所 TEL(0569)32-6616

半田市産後期支援ホームヘルパー派遣事業

産後期の母親の体調不良などで、日常生活を営むのに支障がある家庭などにホームヘルパーを派遣し、子育て支援、母子の健康増進を図ります。

半田市福祉部児童課児童担当

TEL(0569)21-3111 内線295

子育て支援事業

“産後期支援”・“プチりんご”

平成19年に半田市より産後期支援事業の委託を受けて5年が経過しました。

私が担当になって2年、新しい命との出会いがとても楽しみです。産後のお母さんは、外出もできず赤ちゃんを二人きりで不安になりがち。赤ちゃんのことや上の子の心配などゆっくりに休めません。でもヘルパーが関わり、調理、掃除、沐浴の手伝いなどをして大変喜ばれています。また、体力が早く回復するように、良い母乳が出るように、と野菜たっぷりの料理を工夫し作ったりしています。ヘルパーに相談ごと聞いてもらえて「ほっとしました」というお母さん方の声も。

他人が家の中に入ることは、最初は緊張するかも知れないけれどすぐに慣れ「良かった、助かった、他の人も利用すればいいのに」と皆さんから言われます。



私は、いつも「一人で頑張らなくていいんだよ。みんなの手を借りるといい子に育つよ。子どもを預けることで、お母さんも息抜きをすることが大切。みんなで育てていくことに価値があると思うよ」とお伝えしています。

その後、どのお母さんも上手に子育てされているようです。最近では、一人目でご利用の方が次の子の時もとご依頼があり、嬉しい限りです。

またりんりんでは、今年度から、産後のヘルパー派遣「プチりんご」を始めました。“もっと自由に、使いやすい子育て支援”を目指しています。上の子のお迎え時に赤ちゃんを安心して家に置いて行けるし、食事も作ります。1時間の支援でも、とても喜んでいただいています。

将来を担う若い人たちの役に立ちたいと思っています。気軽にご利用ください。

倉田